

第 23 回「自然とふれあおう！わんぱく KIDS」

IN 宇佐美

報 告 書

2024 年 9 月 1 日

主 催

特定非営利活動法人 シンク・イー

目 次

理事長 ご挨拶 > 1

実施概要 > 2

組織・役割 > 3

5日間のプログラムのポイント > 4

5日間の様子 > 5～9

スタッフ及びリーダー 所感 > 10～11

協賛 > 12



理事長 ご挨拶

日頃より、私どもの活動にご理解・ご協力ありがとうございます。

本年も「自然とふれあおう！わんぱく KIDS」を無事開催することができました。

関係各位に深く感謝申し上げます。

天候にも恵まれすべての予定プログラムを実施することができました。

2022、2023 年は、集合整列がうまくできない、自ら行動することをためらっているなどコロナ禍生活の影響を感じましたが、本年の子供たちからは以前ののびのびと活発な雰囲気を感じました。また、新しいボランティアリーダーが多く集まり、学生たちもコロナ禍以前の生活に戻ったことを感じました。

私どもは、自分の考えを持ち、他者の考えを認め、社会で率先して役割を担うことのできる自立した人々が協力する社会「自立型共生社会の実現」を理念に活動しています。

本キャンプは、自然とのふれあいにより五感を研ぎ、人とのふれあいにより対話力を養うことを目的に実施しています。

地球規模での自然災害の増加や不安定な国際社会など、次の社会を担う子どもたちの環境は厳しいものと思われませんが、自ら道を切り拓き、より良い社会を築き幸せになってほしいと切に願います。

今後とも、ご支援の程よろしく願いいたします。

特定非営利活動法人 シンク・イー 理事長 喜多 隆正

実施概要

構成団体 主催 特定非営利活動法人 シンク・イー
後援 中央区教育委員会
特定非営利活動法人 東京中央ネット
協力 中央区立宇佐美学園
公益社団法人 東京青年会議所 中央区委員会
宇佐美江戸城石丁場遺跡・伊豆古道保存会

主催団体 理念 「自立型共生社会の実現」
事業名称 第23回「自然とふれあおう！ わんぱく KIDS」
事業目的 青少年の健全育成・ボランティアリーダーの育成
事業コンセプト 「自分でできることは自分です。できないことは助け合う」

開催日程 2024年8月3日(土)から8月7日(水) 4泊5日
開催拠点 中央区立宇佐美学園とその周辺地域および小田原・湯河原地域

事業概要 子ども：3～6年生男女約8名 リーダー：約3名
合計約11名で1つの班を構成 全10班
班別行動を基本とし、海・山・川などの豊かな自然環境の中で各アクティビティを体験する組織キャンプ

参加者 中央区在住・在籍の児童3～6年生 計78名（応募者数：191名）
ボランティア人員 中高生リーダー 3名
大学生リーダー 34名
社会人・リーダーOB 5名
NPO 3名
地域の方 2名

問い合わせ先 特定非営利活動法人 シンク・イー
E-MAIL : 2024wanpakukids@gmail.com

写真&報告書 URL : <http://www.tokyochuo.net/meeting/kids/jigyuu/wanpaku2/index.html>

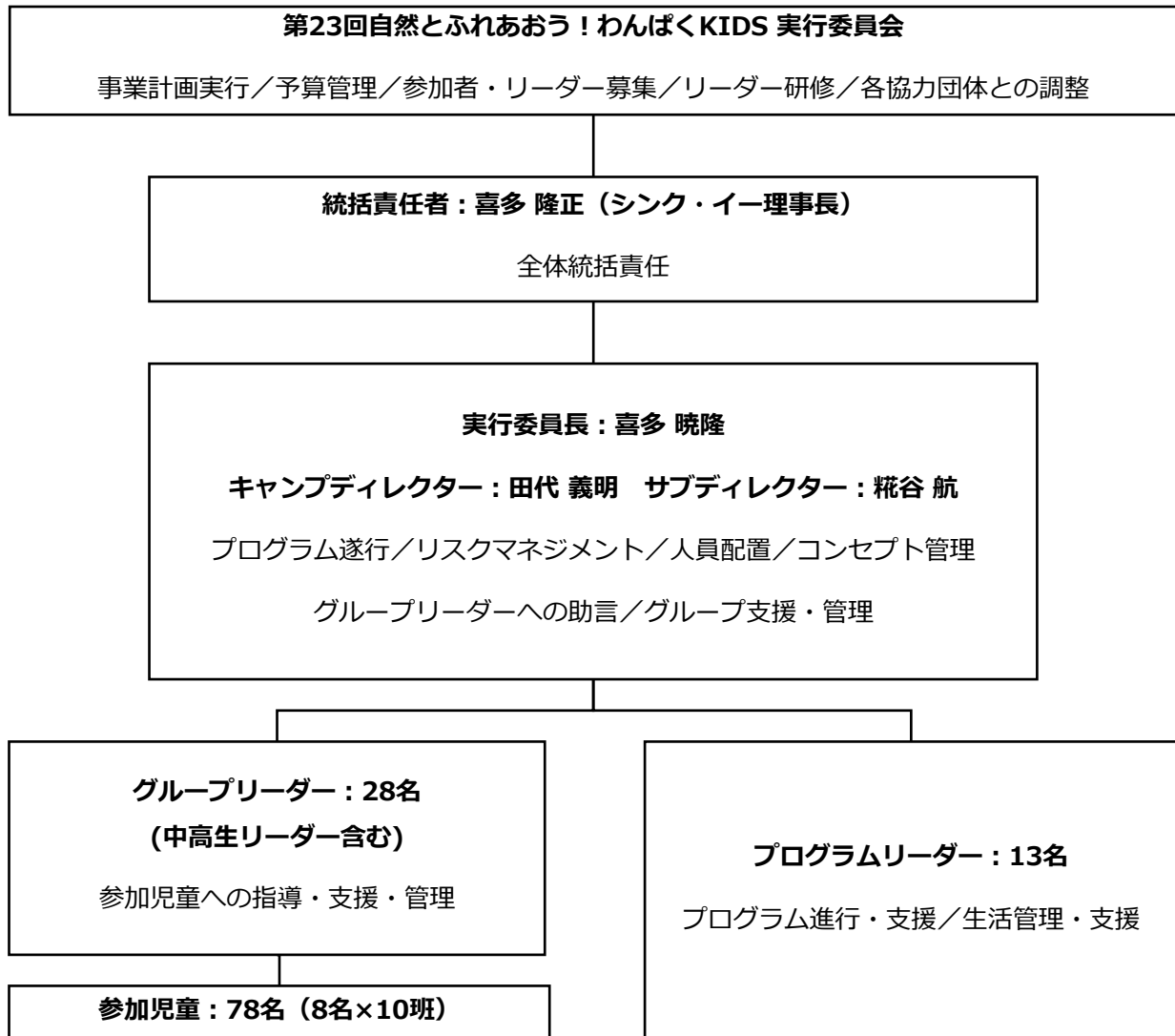
※写真掲載は、NPO 法人東京中央ネットに協力いただいております

(掲載時期：9月頃を予定)

QRコードはこちら



組織・役割



5日間のプログラムのポイント

■わんぱく KIDS の約束

- 1、自分でできることは自分でしよう！
- 2、ひとりでできないことは助け合おう！
- 3、あいさつをしよう！
- 4、身の回りはきれいにしておこう！
- 5、生き物はたいせつにしよう！
- 6、リーダーになんでも相談しよう！

■方針

生活重視（あいさつ・清掃・整理整頓・履物をそろえる・身体をよく拭いてから浴室を出るなど）

■清掃・整理整頓

毎朝清掃と荷物整理をし、身の回りを自ら正す経験から生活面での自立への気づきを促す

■食事

手をつける前に自分の食事量を考慮し、同じテーブルのお友達とシェアをし、残さないようにする
嫌いなものは目標量を決めて食べる努力をする

■班旗づくり

班のシンボルとなる旗を作り、班員としての意識を高める

■山・川・海での自然体験

都会で出来ない体験により自然への理解を深める
自然での遊びを通じて常にチャレンジをし、成功・失敗体験をする

■野外調理・ひものづくり(食育・食を通した健康や生命に関する教育)

他の生き物の命をもらって生きていることへの気づき
家族をはじめ多くの人たちの労力があって食事ができることへの意識付け

■班別自由プログラムの計画と実施

班ごとに決めたスローガン達成のため、4日目のプログラムを話し合い計画する
自己分析、集団の意思決定、自立への気づき
自己・他者を大切にすることの重要性の認識

■江戸城石丁場遺跡散策

身近な地域からの歴史理解（中央区と宇佐美のつながりなど）

■キャンプファイヤーとふりかえり

全体の一体感と達成感を高め、キャンプの収束とする

5日間の様子

	1日目 (8月3日)
朝	T-CAT 集合・出発 (7:30) トイレ休憩 (海老名 S.A) 湯河原幕山公園着 川遊び ①
昼	昼食 (弁当) 湯河原幕山公園出発 宇佐美学園着 ② 入所式 (宇佐美学園中庭にて) オリエンテーション レクリエーション ③ 入浴 夕食 ④
夜	班旗づくり ⑤ 消灯 (21:00) リーダーミーティング

① 湯河原にて川遊び



② 学園まで自分の荷物を運びました！



③ 体育館にてレクリエーション



⑤ 班の象徴となる旗作り



④ 食堂にて班ごとに夕食



	2日目 (8月4日)
朝	起床 朝のつどい (7:00) ① 朝食 清掃 宇佐美海岸着 磯浜あそび ②③
昼	昼食 (弁当) 磯浜あそび 宇佐美学園着 入浴 夕食
夜	宇佐美の歴史・石丁場遺跡講演 ④ 消灯 ⑤ リーダーミーティング

① 朝からグラウンドにて運動！



② 晴天に恵まれ海水日和でした！



③ 磯では生物観察



④ 翌日の裏山備えて講演で座学



⑤ 寝る前はみんなでまったり



3日目 (8月5日)	
朝	起床 朝のつどい 朝食 清掃 班別行動 (ローテーション) ・ひものづくり ① ・裏山遺跡散策 ② ・プール ③
昼	昼食 (弁当) 班別行動 (ローテーション) 炊事買い出し ④ 入浴 炊事体験(炊飯/カレー/ひもの)⑤ 夕食
夜	4日目の班別自由行動の計画 消灯 リーダーミーティング

① 魚屋さんから干物レクチャー



② 遺跡を巡りながら裏山散策



③ 楽しく安全にプール遊び



⑤ みんなで一生懸命夕飯作り



④ 近くのスーパーで材料買い出し



4日目 (8月6日)	
朝	起床 朝のつどい 朝食 清掃 班別自由行動 ①②③ 工作／プール／ 体育館遊び／発表会練習等
	昼食 (弁当) 班別自由行動 工作／プール／ 体育館遊び／発表会練習等 入浴 夕食
夜	発表会 ④ キャンドルファイヤー ⑤ 消灯 リーダーミーティング

① 体育館でドッチボール



② 中庭で班で楽しく



③ 自由時間に発表会準備



⑤ 最後の夜はしんみりキャンドルファイヤー



④ 各班、4日間の思い出を発表に！



	5日目 (8月7日)
朝	起床 退所準備 朝食 ① 大掃除 ② 宇佐美学園出発
昼	石垣山一夜城歴史公園着 自由行動 ③④ 昼食 (弁当) 石垣山一夜城歴史公園出発 トイレ休憩 (海老名 SA)
夜	T-CAT 到着・解散 (16:45) ⑤⑥

① 最後の食堂ご飯！



② 5日間使った学園を綺麗に！



③ 最後のプログラム！最後まで全力で！



④ 最後はみんなで集合写真！



⑤ T-CAT に無事到着！班で集合写真！



⑥ 5日間一緒に過ごしたリーダーと記念写真



スタッフ及びリーダー 所感

<実行委員長：喜多暁隆>

一昨年度より、実行委員長を担当しております、喜多暁隆です。気候変動により天候が変わりやすい近年、また気温の上昇に伴う熱中症のリスク高や感染症の流行に伴う健康面のリスク高の中、本年度は全日天候に恵まれ、大きな事故もなく過ごすことができました。4泊5日間安全に過ごすことができたのは、中央区・宇佐美学園・伊東市とその周辺地域の関係者各位をはじめ、キャンプリーダーやスタッフのみんな、そしてなによりも私どもの活動にご賛同いただいた保護者と参加者であるお子様、皆様のご理解とご支援あっての事業だと改めて実感いたしました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

これからも当事業は当 NPO 法人の理念である「自立型共生社会の実現」と当事業のコンセプトである「自分でできることは自分です。できないことは助け合う」を軸に、変わりゆく時代に順応しながら事業を継続していく所存でございます。今後とも当団体及び当事業にご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

<サブディレクター：糀谷航>

今年サブディレクターを担当しました糀谷です。今回のわんぱく KIDS は子供と関わるグループリーダーは全員未経験者という新たなメンバーで行い、リーダー経験者はその補助をするという組織体制で行いました。未経験ならではの新しい発想でプログラム内容に新たな風が吹き込まれより良いキャンプとなりました。

今年は天候にも恵まれ海、山、川、プールと日ごろできない自然体験を体験することができたと思います。このわんぱく KIDS では「自分でできることは自分です！できないことは助け合う！」をコンセプトに4泊5日の共同生活を送ります。初日は表情の固い子やなかなか自分から行動できない子も日を追うごとに笑顔が増えたり、自分から進んで協力をしたりと成長していく姿が見られました。リーダーも班のメンバーも初対面の中、全員で協力する大切さを学べたと思います。最終日のキャンドルファイヤーでは班のメンバーや友達との別れを惜しみ涙を流す子どもやリーダーの姿もありました。「また来年も行きたい」そんな声を聞くたびに私自身も来年が楽しみになります。また来年、みんなで宇佐美で素敵な思い出を作りましょう！

<8班グループリーダー：滝島重哉（大学3年）>

今回8班のグループリーダーを務めました、滝島重哉です。昨年に引き続き、2回目の参加です。昨年は初参加で緊張してプログラムや子どもの安全などしか考えられていませんでしたが、周りの班や全体を気にして、先のことを考えながら行動できたと思います。さらに今回は子どもの成長を感じることができました。前回は子どもと濃い時間を過ごしたという感覚が強かったのですが、今回はこのわんぱく KIDS の目標である「自分でできることは自分です、できないことは助け合う」を意識してどうしたら子どもたちがそのようにできるのかを考えながら接しました。1日目は何をしたらいいのか分からないため、私が率先して動き、2日目以降は少しずつ子どもたちに任せていきました。3日目からは食事の準備など自然と動くようになり、協力するようになったおかげか子どもたち同士の会話も増えました。4・5日目になると、今までリーダーである私が行っていたことを6年生が行い、大学生リーダーがいなくとも、子どもたちだけで協力して行っていたのを見て、大きな成長を感じました。6年生2人には感謝していますし、これからわんぱく KIDS で培ったことを活かして活躍することを願っています。その他の下級生もしっかりと周りを見て役割をこなしていました。これからの学校生活や来年のわんぱく KIDS で期待したいです。

また、昨年に続いて2回目の参加ということで、昨年私の班だった子どもと再開した時はとても嬉しかったです。子どもたちだけではなく、久しぶりにあったリーダーやスタッフの方もいました。1年ぶりというのを感じさせないぐらい、たくさんコミュニケーションが取れたと感じています。このようにコミュニティが増え、つながりができるのもわんぱく KIDS の良さだと思いました。そのため、子どもたちにはリーダーとして来てほしいと思いますし、会える時を楽しみに待っています。最後になりますが、4泊5日、ありがとうございました。

<10 班グループリーダー：鈴木天斗（大学2年）>

10 班のグループリーダーを務めました、鈴木天斗です。今回がわんぱく KIDS への初参加でしたが、周りの方々のサポートもあり、なんとか4泊5日やり遂げることができました。教育学部でも教師を目指しているわけでもない私がわんぱく KIDS に参加した理由は単純に楽しそうだなと思ったからでした。実際に1日目を迎えると、子供たちを任されている責任感と緊張で楽しさより疲れの方が勝り、楽しむことができるのかと思っていました。

しかし、2日目、3日目と子供たちと一緒に過ごしていく内にわんぱく KIDS の活動の中に楽しさややりがいを感じるようになりました。班のみんなで考え、助け合いながらカレーを作ったり、アイデアを出し合いながら発表会の練習をしたりと「自分で出来ることは自分です、できないことは助け合う」をコンセプトにした4泊5日の生活で子供たちの成長をすぐそばで見守ることができたからだと思います。特にリーダーが何も言わないのに子供たちだけでご飯の準備を行っていた際は感動しました。4日目のキャンドルファイヤーでは、思い出を振り返りながら泣いてしまうリーダーや子供たちをみて、わんぱく KIDS がみんなにとってかけがえのない大切な思い出になっていることを実感しました。

リーダーとして大変で苦労したことはありましたが、4泊5日を終えた今はそれ以上に「楽しかったな、また行きたい」という気持ちが強くあります。都会では体験できないようなことを子供たちに与えるはずのリーダーがいつの間にか子供たちから楽しさややりがいを与えてもらっていたという他では味わえない貴重な体験をわんぱく KIDS ではさせてもらいました。子供たちだけではなく、私たちにとっても忘れることのない良い思い出になりました。本当にありがとうございました。

<6 班グループリーダー：松下楓子（大学2年）>

6 班のグループリーダーを務めました、松下楓子です。私は今回、初めてわんぱく KIDS に参加しました。小学生の子どもたちをはじめ、普段関わることのない他大学の方や高校生、スタッフの方々と4泊5日とともに過ごし、多くの学びを得ることができました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

私がこの5日間で最も強く感じたことは、皆と一緒に活動することの難しさです。わんぱく KIDS のプログラムは、班で行うものがメインです。私が担当した6班は、みんな元気で明るく、少し目を離すと1人はいなくなるような自由な子どもたちだったので、まとまって動くことにとっても苦労しました。班で点呼をする際は、全員揃っているかいつもハラハラしましたし、役割を決める際は、分担に偏りが出ないように調整するのが大変でした。

自由奔放な6班の子どもたち、初日は主にリーダー2人でまとめていましたが、2日目からは班の高学年の子たちが班員に声をかけ、集団行動を促してくれるようになりました。最初は頼りなかった子が「今は片づけをする時間だよ!」「〇〇ちゃんこっち!」など周りに指示や声かけを行う様子が見られ、着実に成長する子どもの姿に感動しました。夜、他の班のリーダーの方と話してみると、私と同じように子どもたちの成長を感じている人がたくさんいました。この5日間で、どの子どもたちも成長していることを改めて実感しました。

私とはいうと、この5日間を通して少し強くなれたような気がします。うまくいかない時すぐに落ち込むのではなく、他のリーダーやスタッフの方々に相談したり子どもたちに話してみたり、自分ができる最大限の行動を取ることができました。行動を起こすのが苦手な私にとって、これは大きな成長であると思います。

4泊5日のわんぱく KIDS を終えて、参加した多くの方が様々な成長を感じていると思います。そして、間違いなく「次も参加したい!」と思ったことでしょう。私もその1人です。この5日間は私にとって、非常に有意義な時間でした。改めて、このような機会を頂いたことに心から感謝いたします。ありがとうございました。

協賛

(株)ロイヤルパークホテルズアンドリゾーツ (株)建設技術研究所

物品協賛・協力

(株)オーガニックキッチン

小坂こども元気クリニック

(公社) 東京青年会議所 中央区委員会

(株)ネオ・コミュニケーションズ

天麩羅 天音

タチバナアーツ管理(株)

古屋法律事務所

(株)小川商会

富江 裕子

半澤 勝己

高松建設(株)

(株)サヨカ

朋和商事(株)

(株)サプル

(株)中央コミュニティー

飯塚 宜広

下目黒歯科内科

前田 千晴

大森造園建設(株)

(株)日本ワークサービス

(株)セントラルエステート

(※順不同 敬称略)

<当報告書に関するお問い合わせ先>

特定非営利活動法人 シンク・イー

E-mail : 2024wanpakukids@gmail.com